

共生社会ホストタウンについて

共生社会ホストタウンとは、パラリンピアンとの交流をきっかけに、共生社会の実現に向けて、ユニバーサルデザインのまちづくりや心のバリアフリーに取り組む自治体を、国が定める制度です。

共生社会の実現に向けた取り組み

障がいのある海外選手たちを迎えることをきっかけに、道路や鉄道などの交通施設、宿泊施設や運動施設をバリアフリー化。また、地域住民に対しての受け入れ研修や子どもたちへの教育も行います。

幅広いカタチでパラリンピアンと交流

パラリンピック出場経験のある日本人選手を招き講演や学校訪問を実施。地域住民が障がいのある選手たちと接することで、共生社会の実現に向けた気づきを得て、意識を変えていくきっかけを作ります。

町田市としての取り組み

町田市は、共生社会ホストタウンとして国から認定を受けました。そして、東京2020パラリンピック競技大会に向けたパラバドミントンインドネシア代表チームの事前キャンプ地にもなり、さまざまな取り組みを実施しています。

パラリンピアンや地元の障がいアスリートと交流

2017年からパラバドミントンインドネシア選手団や日本選手団の合宿を開催。コーチによるバドミントンクリニックの実施や、小学校・中学校で選手たちとの公開授業、交流会も行っています。そのほか、町田市出身のパラリンピアン・鹿沼由理恵選手プロデュースによるパラスポーツ体験イベントも開催しました。

心のバリアフリーへの取り組み

市で購入したパラバドミントン競技用車いすを使用して、小学校での体験会やさまざまなイベント・展示会でのデモンストレーションなど、市民がパラバドミントンに触れる機会をつくっています。また、市民がパラスポーツにふれる機会を増やすため、関東パラ陸上競技選手権大会やブラインドサッカーDreamマッチなどの大会も行われました。



パラリンピックのはじまりと概要



パラリンピックは、障がいのあるトップアスリートが出場できるスポーツの祭典です。4年に一度、オリンピック競技大会の終了後、同じ場所で開催されています。

パラリンピックはいつからはじまったの？

きっかけは、1948年イギリス・ロンドン郊外の病院で開かれたアーチェリーの競技会です。第二次世界大戦で主に脊髄を損傷した兵士たちのリハビリの一環として行われ、1952年に国際大会になりました。

パラリンピックの由来は？

Para (沿う、並行) + Olympic という意味で、「パラリンピック」という公式名称が定められました。出場者も車いす使用者から対象が広がり、さまざまなスポーツが行われるように。1988年のソウル大会からは、オリンピック後に同じ場所で開催されるようになりました。

東京2020パラリンピック競技大会はどんな感じ？

東京2020パラリンピック競技大会は、22競技539種目が21会場で実施される予定です。期間は、2021年8月24日の開会式翌日から9月5日の閉幕まで。12日間にわたり、パラアスリートたちによる熱き戦いが繰り広げられます。

どんな競技が行われるの？

水泳や陸上競技、5人制サッカーや卓球、車いすバスケットボールなどの球技。格闘技は柔道や車いすフェンシングなどが、そのほか、自転車(トラック・ロード)や射撃、カヌーなども行われます。東京2020パラリンピック競技大会から、バドミントンとテコンドーが正式種目として加わりました。

